

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	小牧岩倉衛生組合負担金				担当部	市民生活部									
	会計区分	一般会計		事業類型	一般事業		担当課	廃棄物対策課								
	事業期間	平成12年度以前		～	平成31年度以降		担当係	ごみ減量推進係								
	総合計画 新基本計画	施策等	1 安全・環境		5 ごみ対策		4 ごみの安定処理を推進します									
			重点事業		実施計画事業	○										
	予算区分	款	4		項	2		目	2		大	6		中	1	
	根拠法令・個別計画	小牧岩倉衛生組合実施計画及び予算														
	目的	何・誰を対象に	小牧岩倉衛生組合の実施する本市のごみ中間処理及び最終処分													
		どの様な状態にするのか	ごみの中間処理及び最終処分を安定的に行う													
	内容(手段) 目的達成のためにどのような事業を実施したか	<p>◆平成27年度実施内容</p> <p>○運営費負担金(453,296,000円) 運営費負担金＝均等割(運営費負担金×10%÷2)+搬入量割(運営費負担金×90%×小牧市の搬入量／小牧市と岩倉市の搬入量)</p> <p>○建設費負担金(312,421,000円) 建設費負担金＝均等割(建設費負担金×20%÷2)+人口割(建設費負担金×80%×小牧市の人口／小牧市と岩倉市の人口)</p> <p>【平成27年度搬入量】 47,231.99t(小牧市:37,474.86t 岩倉市:9,757.13t)</p> <p>【処理施設等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ溶融施設(平成27年3月竣工) 処理方式 シャフ炉ト式ガス化溶融炉(98.5t/日×2炉) ・ごみ破碎施設(平成27年3月竣工) 処理方式 破碎選別方式(27t/5h) ・最終処分場(平成10年4月埋立開始) 処理方法 サンドイッチ工法 埋立容量 293,900m³ <p>※新施設であるごみ溶融施設では、燃やすごみと破碎残渣(破碎ごみ、粗大ごみを破碎し、鉄くず等の資源を取り除いたもの)を約1800℃で溶融処理し、資源としてスラグ、メタルを回収するため、資源回収量が増加するとともに、埋立処分量が削減される。</p> <p>◆平成27年度直接経費の内訳 負担金:765,717千円(運営費:453,296千円、建設費312,421千円)</p> <p>◆平成28年度直接経費の内訳 負担金:1,055,466千円(運営費:718,090千円、建設費:337,376千円)</p>														
受益者負担	無															

		単位	H25決算額	H26決算額	H27決算額	H28予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	999,115	1,082,870	765,717	1,055,466	
		正職員	従事者数	人	0.10	0.10	0.10	0.10
			人件費	千円	550	550	550	550
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計	千円	999,665	1,083,420	766,267	1,056,016	
	対前年比	%			108.3	70.7	137.8	
財源	一般財源	千円	538,646	1,083,420	766,267	1,056,016		
	国・県支出金	千円	461,019	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H25	H26	H27	H28
	績	可燃ごみ年間搬入量	t	目標	—	—	32,900
実績				32,971	33,170	33,354	
業	不燃ごみ年間搬入量	t	目標	—	—	2,450	2,450
			実績	2,704	2,554	2,610	
業	事業系ごみの年間搬入量(内数)	t	目標	—	—	12,500	12,500
			実績	12,109	12,644	12,517	
業	成果指標名	単位		H25	H26	H27	H28
	再資源化率	%	目標	29.0	29.0	35.2	35.0
実績			31.3	30.7	35.0		
業	ごみ溶融施設における溶融量	t	目標	—	—	—	36,500
			実績	—	—	36,885	

事業の自己評価	平成27年度の実施結果	事業の達成状況	小牧岩倉エコルセンターにおいて、小牧市から発生するごみの中間処理及び最終処分を安定的に実施した。				
	平成28年度の改善内容	事業実施における課題	新施設においては、従来破碎不燃物として、外部処理していた皮革・ガラス等を溶融処理するが、当初設計において、従来のごみ分別計画での設計を行っていることから、ごみピットへの影響や収集ルートの見直し等を検討した上で、市民にとって、利便性のあるごみの分別方法等を検討する必要性がある。				
		基本施策の展開方向の目的に対する影響(貢献等)	新施設は安定的に稼働しており、溶融後に排出されるスラグ、メタルを資源化することにより、再資源化率が向上した。				
	平成29年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)			
二次評価	方向性の判定	判定理由	廃棄物処理法上、一般廃棄物の収集運搬及び処理については、市町村の責務とされているものであり、本事業は、その内の溶融等の中間処理及び最終処分といった処分を行っている小牧岩倉衛生組合に対して、経費負担をしているものであるため、必要不可欠なものである。				
		29年度以降の改善案	引き続き安定稼働に必要な負担金を継続する。				

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。